

ユニバーサルデザインとは？



ユニバーサルデザインとは、「出来る限り多くの人にとって利用しやすいデザイン」のことです。このユニバーサルデザインを提唱したのは、ノースカロライナ州立大学(米)のロナルド・メイス氏(1941年〜1998年)です。彼自身も身体に障がいのあった方です。彼が唱えたユニバーサルデザインには、7つの原則があります。

- ① 誰にでも公平に利用できる
- ② 使う上で柔軟性に富む
- ③ 簡単に直観的に利用できる
- ④ 必要な情報が簡単に理解できる
- ⑤ 単純なミスが危険につながらない
- ⑥ 身体的な負担が少ない
- ⑦ 接近して使える寸法や空間になっている

一口に障がいのある人といっても視覚・聴覚・肢体・内部・知的など様々な障がいがあり、同じ障がいでも程度の差もあります。また、誰もが、怪我などで一時的に障がいをもつこともあるでしょう。言葉の分からない土地に行けば、外出するのに不便を感じることもあるでしょう。ロナルド・メイス氏は、障がいのある人を特別視せずに、あらゆる人が快適に

暮らすことができるデザインとして提唱しました。

私たちの身の回りにあるユニバーサルデザインを取り入れている一例として多目的トイレがあります。広くスペースを取ることで、車いす利用者に限らず、ベビーカーを利用している親や、荷物をたくさん持つ人なども快適に利用することができます。他にも私たちが何気なく使用している物にもたくさん取り入れられています。

誰もが住みやすい街にするため、周りの人のことを考え、身近な所で出来るちょっとした工夫について考えてみませんか？

方々だけでなく、誰でも容器を触った時にシャンプーとリンスを区別できるように工夫されている。



■問合せ先

障がい者基幹相談支援センター

☎055(262)1274

FAX055(262)1276

✉fukushi-shien@city.

fufuki.g.jp